

シンポジウム『琵琶湖・淀川の水質の現状と課題』について

里山学研究センター 博士研究員

太田 真人

2015年11月9日、大阪の国民會館において公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構が主催するシンポジウム『琵琶湖・淀川の水質の現状と課題』が行われた。そのシンポジウムに参加し、意見交換を行ってきたので報告を行う。

シンポジウムのプログラムは以下の通りであった。

招待講演：

「環境微量汚染物質による水質汚濁問題」

田中弘明（京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター 教授）

「水道原水としての淀川の水質～下水飲用再利用の動向から人口減少社会への対応まで～」

伊藤禎彦（京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻環境システム工学講座 教授）

特別講演：

「琵琶湖・淀川流域の水質・水環境保全の課題」

小山下英文（国土交通省近畿地方整備局企画部環境調整官）

研究講演：

「琵琶湖の水質と難分解性有機物」

早川和秀（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 総合解析部門副部門長兼総括研究員）

「大阪湾での水質の課題」

相子伸之（大阪府立環境農林水産総合研究所）

「琵琶湖・淀川流域での水質のデータ整理と地図情報化」

和田桂子（琵琶湖・淀川水質保全機構水質浄化研究所副所長）

国会で琵琶湖保全再生法が成立した今、次世代を見据えた流域水環境の監視・評価・管理の視点と展望や琵琶湖・淀川の水の安全・安心を守り続けるためにはどうすべきかなどをテーマに講演が行われた。